

戦争の悲惨さと平和の大切さを胸に

糸魚川東中学校 2年 竹田 悠真

今回、広島派遣研修に参加し、3日間を通して戦争の恐ろしさと平和の尊さについて深く学ぶことができました。教科書でも知識として学んでいたことも、実際に現地で話を聞き、平和記念式典に参加し、資料を目にすることで、より現実味をもって心に刻まれました。ここでは、その中でも特に印象に残ったことについて振り返りたいと思います。

1つ目に印象に残っているのが被爆体験講話です。被爆体験講話のお話を聞いて、原爆が人々の命や日常を一瞬で奪ったことの恐ろしさを実感しました。講話の中で、胎内被爆について初めて知りました。原爆が落とされたとき、お母さんのおなかの中にいた赤ちゃんも放射線を浴び、成長に影響を受けたことを聞き、とても驚きました。生まれる前から健康や命が脅かされるなんて、本当に悲しく恐ろしいことだと思いました。

2つ目に印象に残っているのが平和記念式典です。平和記念式典に参加し、静かな中に多くの平和が込められていることを感じました。市長の平和宣言や子供代表の誓いの言葉から、戦争を二度と起こしてはいけないという強い決意が伝わりました。日常の平和が当たり前ではないことを忘れず、これからも平和を守るためにできることを考えていきたいと思います。

3つ目に印象に残っているのが平和記念資料館です。平和記念資料館を見学し、原爆の恐ろしさと戦争の悲惨さを改めて感じました。資料館の当時の写真や焼け焦げた衣類、壊れた日用品を目の前にして、教科書で学んだことよりも強い衝撃を受けました。特に被爆した子供たちの遺品には胸が締めつけられました。何の罪もない多くの人たちが命を奪われたことを忘れてはいけないと

いました。今生きていらざることがどれだけ幸せか改めて感じることができました。

今回の広島派遣研修を通して、戦争や原爆の恐ろしさ、そして平和の大切さを強く感じました。平和記念式典では、多くの人々が祈りをささげ、戦争を二度と起こさないという決意を共有していました。平和記念資料館では、写真や遺品を通して、原爆で一瞬にして命や日常が奪われた現実を知り、胸が痛みました。被爆者講話では、放射線による健康被害の深刻さを学びました。これからも学んだことを周りに伝え、二度と同じ悲劇を繰り返さないために行動していきたいです。さらに、この学習を通じて「今ある平和をどうつなげていくか」という問いを持つようになりました。日々の生活の中でも相手を思いやり、小さな争いを避けることが平和につながるのだと考えます。今回の経験を忘れず、未来を担う一人として責任ある行動を続けたいです。
